第31号
平成22年
2010

会　報

にしきうら

平成22年度文化祭の仮装行列

高知県立須崎工業高等学校同窓会

会報「にしきうら」第31号　平成22年　2010年12月１日

目　　次

ご挨拶 …… 同窓会　会長　森岡　清 …… 1
ご挨拶 …… 〃　副会長　中西　安男 …… 1
ご挨拶 …… 〃　副会長　梅原　正博 …… 2
ご挨拶 …… 校長　徳永　靖彦 …… 3
学校の近況について …… 教頭　小松　茂久 …… 4
進路指導部より …… 部長　長山　孝弘 …… 5
夢舞台、神戸インターハイ …… 卓球部顧問　市川　尊志 …… 6
支部便り
関東支部だより …… 福井　幸正 …… 7
中京支部だより …… 沖　良二 …… 8
京滋支部だより …… 濵川　嗣郎 …… 8
大阪支部だより「大阪支部の活動」 …… 野並　允温 …… 10
高知支部だより …… 林　和夫 …… 11
須崎支部だより …… 梅原　正博 …… 12
窪川支部だより「窪川支部の発足」 …… 森岡　清 …… 13
古希を迎えたクラス会 …… 竹村　寿夫 …… 13
事務局便り　22年度総会報告 …… 事務局 …… 15
終身会費納入済者名　平成19年10月～22年10月まで …… 16
決算報告　平成19年度～21年度 …… 18
平成22年度　事業予定及び予算 …… 22
平成22年度～24年度役員 …… 23

ご挨拶

高知県立須崎工業高等学校 同窓会
会長 森岡 清

会員の皆様方におかれましては、お変わりなくお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。今年の夏は、ことのほか暑い毎日でしたが、九月も中旬に入ってようやく秋の気配が感じられるようになってまいりました。

先日、九月十一日には、三年に一度の同窓会本部の総会が行われ、母校校長先生をはじめとするご来賓、各支部の支部長さん、地元を中心とする会員の皆さん方、総計百六十二名のご参加を得て、盛大な総会になりましたことは、同窓会自体にとりましてもその意気込みを強く感じとることが出来ました。ご参加下さった皆さんには心からお礼を申し上げます。特に、須崎支部の特別の計らいもあって、五十人近くの平成卒業組が参加され、これも同窓会の将来を考えますと大変心丈夫なことであります。総会では、平成十九年から同二十一年まで三年間の、事業報告並びに会計報告、同じく監査報告、並びに役員改選、二十二年度の事業計画および予算案その他が審議されました。

過去三年間の主な出来事をかいつまんでご報告しますと次のようなことが上げられます。

一、長年休止状態にありました、窪川支部が支部総会を行い再発足しました。今後窪川地区会員の連携もさらに活発になることを期待します。

二、同窓会本部役員の異動がありました。これまで長年にわたって同窓会の中心となって本会の発展にご尽力頂いてきた、副会長の岡林幸保さんと山地健三さんがご退任され、顧問として今後も引続きご協力頂くことになりました。

代わって、元高知支部長の中西安男さんと須崎支部長の梅原正博さんが副会長に就任されました。これからの三年間は、このお二人の副会長と事務局長の井上健弘さん、それに私の四人が中心になって同窓会を更に発展させていきたいと存じますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

三、もう数年来の課題として残っていますのが、本会の運営の中心となる事務局の所在であります。本会の事務局は、従来母校に教員として奉職する会員の皆さんによって運営されてまいりましたが、段々と退職され、現在では在職者は三名のみになっています。そしてこの三名も転勤などでいつ〇名になってもおかしくない状況にあります。従って今のうちから事務局を学校外に移し、同窓会の運営に支障をきたさないように考えていく必要に迫られています。

以上のように、よいお知らせもあれば大変な課題を残しているところもあるという現状です。今期の三年間で特に課題の解消に力を尽くしていかなければと考えています。

一方、母校の方は、全国的な生徒数の減少から一時期学校存続の危機まで考えられましたが、その後は校長先生はじめ先生方の大変なご努力で、生徒数が維持され安定した状況になってきました。学校関係者のご尽力に心から感謝を申し上げます。

世界的な不況の中、社会経済の落ち込みから会員の皆様方には大変苦しい状況に置かれている方もいらっしゃると思いますが、どうかこの難局を乗り切っておおいにご活躍されますようお祈り申し上げご挨拶並びに総会のご報告と致します。

ご挨拶

昭和三十二年機械科卒
同窓会副会長
中西安男

同窓会員の皆様におかれましてはますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

又皆様方には日頃より各支部を通じて同窓会活動にご理解とご協力を頂き心より厚く御礼申し上げます。

さてこの度、平成二十二年度理事会において須崎

工業高校同窓会の副会長に選任され同日付を以って就任致しました。

浅学非才の者ですが他の三名の副会長さんと協力しながら森岡会長を補佐してまいりたいと思っております。

私が同窓会に携わるようになったのは、昭和三十二年に須工を卒業して高知市に就職して数年経ってからでした。清家寛さん（現相談役）から須工同窓会の高知支部を作るから手伝ってほしいと相談があり、手伝わさせて頂いたことがはじまりでした。

職或の名簿作りや年会費の集金等に奔走したことがまるで夢のようです。その後高知支部も、清家支部長さんをはじめ、役員さんたちのご努力により年々充実し現在に至っています。私も支部長を二期務めさせて頂きました。

今年の九月十一日、本部総会が須崎市のＪＡくろしお会館で盛大に開催されました。

徳永靖彦校長先生の挨拶のなかで、校訓として、勤勉、規律、友愛、美化を掲げ、信頼と尊敬に値する工業技術者の育成、人間尊重と連帯の精神の育成を教育目標に全教職員が一丸となって取り組んでいる活動が報告されました。又教育内容もますます充実しつつあり、特に部活動においては年々向上しているとのことでした。就職率も、日本経済が先のみえない大不況のなか、百パーセントの結果を出したと発表があり、そのすばらしい結果に感銘を受けたことでした。

来年三月の卒業を以って、いよいよ一万名を超える卒業生を輩出する見込みと聞き、誠にめでたく七十年間脈々と続いてきた母校の伝統の重さをひしひしと感じます。

最後に、今後の須崎工業高校のますますのご発展をお祈り申し上げると共に、私たちも同窓生の一人として母校の支援や同窓会活動の活性化に少しでも役立てればと願っております。

就任のご挨拶

昭和四十七年
化学工業科卒
同窓会副会長・
須崎支部長
梅原正博

同窓会会員各位におかれましては、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

この度、平成二十二年度本部理事会において同窓会副会長としてご選任戴き、本年九月十一日に開催されました平成二十二年度の同窓会総会でご承認いただきました梅原でございます。何分若輩者でありながらこの大役をおおせつかり責任の重大さを感じております。

今回の就任にあたりましては、須崎支部から同窓会副会長として選出されておりました山地健三氏が副会長を退任される事となり、その後任として選任されました。当初は若輩である事や仕事などの理由によりご遠慮させていただこうと考えておりましたが、役員の皆様からのお勧めによりお受けさせていただく事となりました。

私は昭和四十七年化学工業科の卒業でありますが、思い起こせば昭和四十七年の卒業は旧校舎がありました西糺町の最後の卒業生で、今は旧校舎の電気科の実習室が須崎商工会議所として残っているだけで、その他の敷地のほとんどが「ショッピングタウンゆたか」の施設となっています。

旧の校舎で学んだ学生時代は楽しかったり、苦しかったりの繰り返しで、今も昨日のように懐かしく思い出されますし、当時の同級生や先輩の事などが最近は以前よりも鮮明に思い出されます。

同窓会については卒業当初から元同窓会会長の故寺田郁夫氏が長い間須崎支部長をされている事を知っている程度でした。その後、知人の勧めで須崎支部の役員としてお手伝いをさせて頂くようになり、支部長をはじめとする諸先輩方のご指導を受けながら年を重ねていくうちに、現在では同窓会にどっぷり漬かり込んでしまいました。

今回の副会長就任により、私自身微力ではありますが役職を全うするよう努めさせていただく所存でございますので、同窓会会員各位の皆様のご指導、ご鞭撻を頂きますよう心からお願い申し上げ、簡単ではございますが副会長就任のご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

高知県立須崎工業高等学校
校長　徳永靖彦

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。日頃は母校の教育活動にご支援・ご協力を賜りまして有り難うございます。心より感謝申し上げます。

本校は昭和十六年に高知県立須崎工業学校として開校し、今年六十九周年を迎え、これまでの卒業生は九千六百四十五名となりました。

私は、平成二十年四月に山崎澄夫校長（現中村高等学校長）のあとを受け本校校長として着任し、はや三年の歳月が流れようとしています。その間、高知支部や東京支部、大阪支部に来賓として招かれ同窓生の皆様と親しく懇談もさせていただきました。どの支部も和気藹々の中で活動しておられ、須崎工業高校ならではの人に対する温かさが感じられるアットホームな集まりに感激いたしました。また、九月十一日には、須崎市本部での三年に一回の総会にも参加させていただき、より一層の須工卒業生の皆様の絆を感じ、羨ましささえ覚えたことでした。今後同窓会への若年層の取り込みなど課題はございますが、皆様方の支部がますます発展をすることを心よりお祈りいたします。また、学校としても少しでも皆様方の力になれるよう頑張って行きたいと思います。

本校は、「信頼と尊敬に値する工業技術者の育成」を教育目標に掲げ生徒を立派な社会人として通用するよう日々教育活動にまい進しています。現在は、アメリカのサブプライムローンの破綻に端を発した百年に一度と言われる不況の時代で、就職氷河期となっています。しかしながら、そのような時代の中でも本校は就職率百%を誇り、県下でも有数の就職に強い学校として頑張っています。これは、生徒の頑張りはもとより、同窓生の皆様の活躍があったからこそです。就職試験を前にした模擬面接では、卒業生が面接官になり本番さながらの面接をしていただいています。また、各企業で卒業生が重役となっており、母校と有機的な連携を取っていただき採用に関してルートを敷いて下さっている事も強みです。各支部の総会に参加させていただいて改めて卒業生の活躍ぶりに感服しました。不況はいつ終息を迎えるか不透明な時代ですが、このような卒業生の頑張りがある限り、須崎工業高校は永遠に不滅です。どうか今後とも母校への温かいご支援をお願いいたします。

今、本校は、工事ラッシュです。昭和四十七年に新校舎に引っ越して以来、三十八年の歳月が流れました。あちらこちらに亀裂など老朽化が目立ちはじめています。近い将来、南海地震も予想されており早急の対策が望まれます。そのため、この八月よりまず体育館の耐震工事が始まりました。来年は、本館の耐震工事も予定されています。体育館の工事に合わせて、食堂をリニューアルします。また、部室も老朽化がひどく、十二月から木造二階建ての新部室が体育館の西側に建築される予定です。創立七十周年にあたる来年度には新しい食堂と部室が新入生を迎える事になります。また、設備も同様に古くなりましたが、昨年度の終わりに汎用旋盤六台、炭酸ガスレーザー加工機など十三物品、約一億円もの設備が配備されました。このように県も財政難の中、本校の施設・設備に多額の投資をしてくれています。学校としてもこれらの支援に応えるべく頑張って行く所存でございます。今後須崎地区も中学生の数が減少します。また須崎市の人口も減少している現状の中、学校としても須崎市の発展を祈らずにはいられません。学校が須崎市とも協働し、地域貢献を果たしていかなければなりません。そのためにも、しっかりと地に足のついた本校の特色を生かした取り組みを進め、次の八十年に向かって同窓会の皆様とともに歩んでゆかなければなりません。同窓会の皆様におかれましては、本校に対する一層のご支援・ご協力を切に賜りたく存じます。今年の夏は猛暑でございました。どうかくれぐれもお体を大切に、皆様のますますのご健勝をお祈りいたしまして挨拶といたします。

学校の近況について

教頭　小松茂久

須崎工業高校同窓生の皆様におかれましては益々ご清祥にて各方面にご活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進指導にご理解とご協力をいただき、厚く厚く感謝申し上げます。

私は、本年度から新任教頭として赴任しました小松茂久でございます。須崎工業高校には今回を含めて三度目の奉職になります。過去の二度はいずれも造船科の職員として、勤務させていただきました。若かりし日々は、ヨット部を復活させ、県下に敵なし（珍しい競技であり須工にしか存在しなかった）であり、国民体育大会やインターハイなどに出場させていただきました。振り返ってみますと公私ともに海をフィールドにした日々でした。三度目の赴任は、大役でありますが、粉骨砕身頑張る所存でありますので、どうかよろしくお願いします。

さて、平成十七年度より同窓会総会と会報「にしきうら」の発行が三年に一回となっており、毎年の開校記念行事には同窓会より後輩へのメッセージとして記念講演をいただいております。

平成二十二年度は、昭和三十七年三月造船科卒業で米国船級協会（ＡＢＳ）ビジネス・ディレクターである岡林謙氏より「社会に出ての人間関係」と題して講演をいただきました。須崎工業高校を卒業してから現在の住友重機械工業の浦賀船渠に入社され、そこで外国人船主監督とのコミュニケーションで苦労し、コミュニケーション能力の重要さ（英語の重要さ）に気づき、気の合う東大卒の同社社員と二人で横浜の山手にある英語学校に通い、通いの電車の中で習いたての英語を二人で喋りまくっていたことなどを懐かしそうに回想していただきました。このことが岡林氏の人生を大きく変えるきっかけとなり、ギリシャ船主の船主監督に雇われることとなり、今日の仕事につながっていったという話でした。また、岡林氏はゴルフが非常にお上手であり、ブラジルに赴任していたころは、ブラジル経済界のリーダーたちとゴルフに興じ、この人間関係が仕事の面にも非常にプラスになったとおっしゃられておりました。

毎年開校記念日（五月二十五日）に記念行事の一環として、先輩から後輩へ講演していただいておりますので、どうかこれからも同窓会員の皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

生徒状況

少子高齢化・情報化・国際化社会等、教育を取り巻く環境は大きな変革時期を迎えております。現在本校は、機械科・造船科・電気情報科、ユニバーサルデザイン科の四科編成となっています。平成二十二年度生徒数は、三百十三名（一年百九名、二年百一名、三年百四名）となっております。九月二十九日には中学三年生による体験入学が行われましたが、例年より体験入学に来る中学生は多く、百三十六名を数えています。これも同窓会諸氏のおかげによる就職率の高さへの期待に由来しているものが大きいと考えられますので、今後とも本校の就職率の維持にご協力をお願い申し上げます。

また、女子の生徒も多くなり本年度は五十一名が元気に通学しております。まだまだ生徒減少期を迎えますので、今後とも生徒募集にお力添えを頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

さらに、平成二十二年度の卒業生は百四名であり、機械科三十三名、造船科十九名、電気情報科二十八名、ユニバーサルデザイン科二十四名が新たに同窓会の一員となっておりますので、先輩諸氏におかれましては今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

学校教育活動

平成十四年度から学校長の強い願いで始めた校内ドラゴンカヌー大会も平成二十二年度で第九回を迎え、須崎市及び須崎工業高校活性化へ向けて地域連携が図られています。須崎市役所職員・漁協関係者はじめ、保護者等のご支援ご協力で開催することができ、今後も特色ある学校づくりと学校の伝統行事としての取り組みが考えられます。高知県教育委員会事務局も本校の校内ドラゴンカヌー大会に理解を示していただき、本年度は生徒移動用バス代金約三十万円を学校長裁量予算として認めてくれました。また、須崎市のドラゴンカヌー大会も第十二回を迎え、ＰＴＡチームが参加しました。残念ながら上位入賞はできませんでしたが、先輩と教職員が一緒に製作したドラゴンカヌーを使って有意義な一日を過ごすことができております。さらに、須崎市におきましては、今年で第三回を迎えるドラゴン甲子園を開催しており、今年も本校から校内ドラゴンカヌー大会優勝の電気情報科三年チームと体育系クラブによるチーム、計三チームが出場しました。結果は十一チーム出場の中、本校チームが一位と三位を占め

るなど活躍をしました。やはり、先輩と教職員が一緒に製作したという強い自負心からの活躍でしょうか。

部活動では、本年度は卓球部、相撲部、空手道部が四国大会に出場し、上位進出をめざし健闘しており、今後の活躍が大いに期待されます。

また、最近の野球部の活躍も大いに期待させるものがあります。春の選抜をかけた県大会におきましては、一回戦は対高知南を延長十二回五対四サヨナラで下し、二回戦は対小津をこれもやはり延長十四回三対二これまたサヨナラで下しております。次はベスト四をかけ、宿敵明徳義塾と対戦します。皆様の応援を期待しております。

最後に同窓生の皆様方のなお一層のご健勝をお祈り申し上げると共に、引き続き本校へのご支援ご協力をお願いしてご報告とさせていただきます。

進路指導部より

部長　長山孝弘

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

本年度の進路指導部は、長山孝弘(部長・機械科)、滝直道(三M主任・機械科)、西山庸一(三S主任・造船科)、岡本利佳子(三EI主任・英語)、金子正雄(三UD主任・ユニバーサルデザイン科)、久武正司(進学・数学)、氏原栄一(就職・電気情報科)、木下裕次郎(就職・造船科)、塩崎健司(進学・理科)、の九名で担当しています。

平成二十年度よりユニバーサルデザイン科の一期生が卒業を迎え、女生徒の就職者も増加しました。また、多田玲子さんには今まで同様に進路のお世話をいただいています。

今年は、リーマンショックの影響による世界的な経済の悪化から持ち直しつつありますが、まだ、各企業とも先行きの不透明感から採用については慎重な姿勢で、就職は大変厳しい状況です。五月から企業訪問を数多く行い求人依頼をお願いしてきましたが、求人社数は昨年よりさらに減少しています。求人状況は、九月末までの求人票の総数二百二十三社(関東六十六社、東海二十九社、関西六十一社、中四国三十七社、県内三十社)でした。来春の卒業予定者百四名中、就職希望生徒は七十八名で、十月十五日現在で六十名が内定する結果となっています。

今後も、同窓会の皆様方の学校へ、また後輩への変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

進路状況

○21年度都道府県別就職者数

関東 1	東京	1
東海 11	愛知	10
	三重	1
関西 12	京都	1
	和歌山	2
	大阪	6
	兵庫	3
中国 6	広島	6
	岡山	0
四国 9	愛媛	5
	香川	4
県外計		39
県内		29

○本年度並びに過去３年間の求人状況（企業数）

年度	関東	東海	関西	中四国	その他	県外計	県内	合計
22	66	29	61	37	0	193	30	223
21	79	47	80	45	1	252	45	297
20	149	136	144	77	3	509	63	572
19	127	126	131	77	4	465	49	514

22年度は、９月30日現在の数です。

○地域別就職者数

年度	22	21	20	19	18
県内	18	29	19	19	23
中四国	16	15	21	12	16
関西	11	12	13	12	7
東海	12	11	18	14	12
関東	3	1	5	7	4

22年度は、10月15日現在の数です。

夢舞台、神戸インターハイ

卓球部顧問
市川尊志

須崎工業高校に赴任して早くも八年が過ぎました。振り返ってみますと、最初に関わった三人の卓球部員が思い起こされます。決して強いとは言えない三人でしたが、「強くなりたい、四国大会に出場したい」という思いを、他校卓球部員とは比較にならないほど強く持っていたように思います。残念ながらその大会に出場することはできませんでしたが、それが後の卓球部の復活と充実につながっていったと確信しています。

また、インターハイ出場選手をその後輩出できたのは、他校卓球部ではあまり例のない、地域のクラブ（須崎クラブ）の方々や、須崎工業高校卓球部ＯＢの方々、また保護者の方々の強いご協力とご支援があったからだと思います。まさに地域社会全体で勝ち取ったインターハイでした。

次に、インターハイに出場した野村洸海選手（現近畿大学卓球部）について書いてみたいと思います。私が赴任三年目の時、三十年ぶりに四国大会を果たし、現在まで八年連続四国大会出場を達成することができましたが、当時、四国カデット（十四歳以下）の部で準優勝していた野村選手は、恩師の田中稔英先生（現上ノ加江小学校学校長）の勧めもあって高知県準優勝校の須崎工業高校卓球部に、遠く足摺岬中学校から入学・入部してきました。入部してすぐに中心選手として活躍した彼は、団体の準優勝に大きく貢献しました。また、二年次には、高知県高校夏季卓球大会（明徳は不出場）で団体優勝、シングルスで優勝を果たしました。

その頃、明徳義塾高校卓球部には、中国人留学生、高知県外から入部の有力選手が多数おり、その一角を崩してインターハイ出場を果たすことは、至難の業でした。けれども、本人自身、全国大会への切符を夢に、さまざまな練習にチャレンジし、高知県冬季卓球選手権大会でその牙城の一角を破り、シングルスで第三位に入賞し、平成二十一年度インターハイに大きく前進しました。そして、インターハイ予選の高知県大会では、ベスト8、決定戦で明徳義塾高校大岩選手を3－0で破り、準々決勝では明徳義塾中学校卓球部時代キャプテンを務めた高知工業高校伊藤選手を3－2の接戦で制し、前ＰＴＡ会長松浦啓人氏のインターハイ出場以来、三十六年ぶりの快挙をなしとげました。本人も私自身も、出場が決まった瞬間、体中の力が抜け、自然と涙が溢れ、二人で抱き合って泣いたことを今も鮮明に覚えています。

その後、八月に行われた平成二十一年度全国高等学校卓球選手権大会（グリーンアリーナ神戸）では、一回戦近大新宮の下出選手に3－0で勝利しました。しかし、二回戦でインターハイ二位校のエース格の愛工大名電岡田選手に健闘むなしく0－3で敗れてしまいました。けれども本人同様、私自身も大きな自信と刺激になりました。

最後になりますが、これまで一緒に支えてくださった須崎クラブをはじめ、地域の方々、私たち卓球部の目標となっているＯＢの方々、卓球部をいつも見守り、支えてくださっている保護者の方々等、本当にありがとうございました。これからも日々精進、努力を重ね、インターハイの切符を勝ち取っていきたいと思いますので、どうか応援をよろしくお願い申し上げます。

支部便り

関東支部だより

昭和三十四年機械科卒
支部長　**福井幸正**

同窓会の皆様方におかれましては、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。関東支部は平成二十年十月十八日、支部総会を開催いたしました。山本義雄支部長をトップに支部同窓会役員全員の努力で、四十数名の同窓生の参加をはじめ、徳永校長先生、森岡本部会長他、ご多忙中にもかかわらず本部からのご出席をいただき、盛大に開催することが出来ました。厚く御礼申し上げます。関東支部の支部長には平成二十二年四月の臨時役員会で私が選任されました。長期に亘り会計役、事務局代表を引き受け同窓会支部の内容は把握しているつもりですが、まだまだ微力です。支部長としての責任は重いと思いますので皆様方のご協力をお願いいたします。また、毎年開催されております隅田公園リバーサイドギャラリーでの「四万十町展」では松本先輩（三〇T）他の東京四万十会の役員の方々が活躍し盛り上がっております。毎年十一月には県主催の「関東高知県人大懇親会」もあり、関東支部としてこれに出席しております。

訃報です。平成二十一年十月十八日、長期に亘り関東支部役員を務め、支部同窓会発展に寄与されま

関東支部役員名簿（平成22年４月）

役職	氏名
支部長	福井幸正
副支部長	川西利通
副支部長	逸見悦子
会計	山本治則
会計監査	岡本仁一
幹事	堀内靖博
幹事	苅部幸子
幹事	原口芙紗子
顧問	野瀬公介

した梅下弘育さんがご逝去されました。梅下さんは昭和三十八年に機械科を卒業されて東京の会社に就職、金型加工技術を学び川崎に金型加工会社を創業された方で、繁忙期には会社に泊まり込みで金型の設計をしておりました。二度ほど会社を見学させていただきましたが、NC制御の金型成形マシンを何台も設備され、二十四時間稼働させるほど繁盛していました。一方彼はなかなかの酒豪で、よく二人で朝まで飲んだ思い出もあります。まだまだ若く、これからという年齢であり非常に残念です。本誌をおかりしましてご冥福をお祈り申し上げます。現在の関東支部の役員体制は次のとおりです。今後の予定ですが平成二十三年度には支部総会を計画致しますのでご協力お願い致します。

中京支部だより

昭和三十九年機械科卒
支部長　沖　良二

暑かった今年の夏、東京では七十一日間真夏日を記録し過去最長となりました。夏が暑いと、冬は寒さが厳しく、この冬は厳冬なのだという。「にしきうら」が届く頃、果してその説どおりの寒い冬になっているでしょうか。

中京支部は活動が再開されて十二年が過ぎました。昨年は例年どおり、ゴルフと懇親会を開催しました。

ゴルフは、観光地として知られた「大正村」に程近い明智ゴルフ場で開催。三河地区、尾張地区からの中間地点（といっても山間部）での開催です。十一月に、標高四百五十メートルのコースでのゴルフは、少しばかり涼しい気もしますが、紅葉の時期でもあり、気分爽快で好プレー（？）が続出。石川遼気分を楽しんだ一日でした。今回は都合で参加できなかった人もあり、七人の参加になりましたが、少しずつ裾野が広がりつつあり、「定年後には…」という方々の参加に期待しつつ、今後も開催を継続します。〈今年は、養老CCに場所を移して開催します〉

昨年の懇親会は、名古屋駅前で開催。場所選定は、遠方からの交通の便を考慮、さらに帰宅時間にも配慮して、十三時開始としました。昨年は十二月中旬開催のため会社の忘年会と競合し、参加者が激減、最終十四名になりました。会場には昨年度の須工の学校案内資料や、須工関連の新聞記事の切抜きなど展示、若き日に思いをはせていました。毎年参加の長老、中澤栄さんや中平傳二郎さんのお二方は、「健康な限り出席するよ」といって、自宅から時間をかけて参加してくださいます。常連さんは、一年間の無事を喜び、再開を楽しみ、みんなから元気をもらっています。毎年のことながら、楽しい時間はまたたく間に過ぎ、あっという間に散会となります。そんな余韻が翌年の懇親会に繋がっています。そして少しずつ輪が広がっています。会員のみなさん、これからもたくさんの参加をお願いします。

〈今年は、忘年会シーズンに先駆けて、十一月に「忘年会」を実施します〉

■お願い

会員の方で、転居による住所変更で、郵便物の不達が増加しています。住所変更時には、左記まで連絡をお願いします。個人情報保護法もあり、中京地区在住の若年須工卒業者の就職先や住所が判明しません。会社で須工卒業の後輩を見かけましたら、同窓会中京支部長までご一報ください。先輩諸氏のご協力をお願いいたします。

◇中京支部連絡先　〒四八七－〇〇三四　愛知県春日井市白山町三－十四－十一　沖　良二

■やっぱり歩こう

平成二十二年九月現在の推計人口で、六十五歳以上の老年人口は二千九百四十四万人で対総人口比率は二十三％だという。私もその齢になった。勝手ながらあと十五年は長生きしたいと思う。はからずも、昨年孫娘の後見人となり、新たな目標ができた。

三十五～七十四歳の米ハーバード大卒業生の調査報告では、一週間に十五キロメートル以上歩く人は、五キロメートル以下の人に比べて、死の危険性が二十一％も少ないという。体格・体形や食べ物が違うため日本人は多少の違いはあるかと思うが、長生きするには歩くことが最低条件かもしれない。

京滋支部だより

昭和三十一年機械科卒
支部長　濵川嗣郎

同窓会の皆様におかれましては、お変わりなくお元気でご活躍の事と存じます。

今年は記録的な猛暑日、熱帯夜が長いこと続きま

した。これも地球温暖化のせいでしょうか。自然現象にもいろんな変化が現れています。政治経済においても大きな変革がありました。さて、会報「にしきうら」が三年ぶりに発行されます。支部だよりの原稿依頼が来ました。これといった活動もしてないのに何を書こうか困りました。現在、支部行事は「グラウンドゴルフ」「秋のハイキング」の二つ。案内状を出しても、参加人数、顔ぶれも相変わらず、役員とその奥様方で細々と行っているのが現状です。こんな状態で支部総会を開き本部役員、他支部の皆様に案内状を出し来て頂くには余りにも失礼過ぎます。残念ですが……。行事後食事をしながら今後の事を話し合うのがせいいっぱい。京滋支部だよりも、発行出来ない状態です。原稿依頼、校正印刷、それに発送と、一部の役員に過大な時間と手間をお願いしなければなりません。現役員も加齢とともに発足当時の気力体力も萎えて来ています。

支部名簿も以前と変わりません。新会員が増えない限り続行は無理と結論を出しました。

こんな事では同窓会支部としても衰退の一途を辿ります。個人情報の関係で連絡等が出来なくなっています。残念な事ですが世の中の流れですかね。紙面に余裕があるので二つの行事の様子を書いてみます。

グラウンドゴルフは滋賀県野洲市の野洲川グラウンドゴルフ場で和気藹々のもと開催されます。昨年は誰だれに負けたと悔しがり、クラブを新しく入手して練習を重ね、見事今年は上位に食い込む健闘を見せた方もいます。ホールインワンを出した時は歓声で、すぐそばを走る新幹線の轟音も消えるほどです。バンカーに入っては悔しがり、ナイスオンでも枠に嫌われ何打も打つ者や強打一発で場外。芝の剥がれで思った所に行かず歯がゆい思いをするもの、いろいろあり楽しい一日でした。最後に景品が渡され、来年も一つでも上位目指して頑張ろうと誓いあって散会しました。

ハイキングは「龍馬伝」が始まることもあり、山歩きをやめて洛東をそぞろ歩きにしました。まず、左京区にある琵琶湖疏水記念館を見学。そこは大正四年当時の姿を再現。ボタンを押すと蹴上浄水場や発電所などが（ＬＥＤ）で点滅し、周辺の水や電力の流れが一目でわかり、また水が濾過されてゆく仕組みを模型で学ぶ事が出来ます。次は東大和路から知恩院、八坂神社とそぞろ歩きが続きます。円山公園では土佐の偉人、坂本龍馬、中岡慎太郎の銅像の前で集合記念写真。持参の食事をとり午後は高台寺、そして幕末の志士、坂本龍馬と盟友中岡慎太郎の墓がある東山区の京都霊山護国神社に参拝。同神社は毎年、龍馬の命日にあたる十一月十五日に「坂本龍馬、中岡慎太郎墓前祭（龍馬祭）」が行われます。境内では高知の大学生や京都府内外の大学生グループが「龍馬よさこい踊り」を奉納。よさこい鳴子踊りをたっぷり観る事が出来ました。

また、府内在住の「高知県人会」がつくった、龍馬が好んだシャモ鍋が振舞われてご馳走になりました。美味しかったよ。今年は「土佐・龍馬であい博」そして、映画「君が踊る、夏」が上映されました。がん少女の感動実話を元に制作されたものです。よさこい踊りがスクリーン一杯に強烈に映し出されます。今年は高知も龍馬ブームで観光客も少し増えたようですね。我が故郷、高知県がこれからもますます元気になってほしいものです。時間もかなり過ぎました。二年坂、産寧坂そして清水寺を歩いた後、ホテルグラン京都清水で食事。しばし歓談しあった後、来年も細々であってもこうした行事を続けて行く事を確認し、それぞれ家路につきました。このような京滋支部ですが今後とも何卒宜しくお願い致します。同窓会員の皆様方のご健康とご活躍を心よりお祈りいたします。

大阪支部だより

大阪支部の活動

昭和三十年電気通信科卒
支部長　野並允温

平成二十二年十一月七日（日）午後四時より八時までホテルコムズにて第十三回大阪支部総会が開かれました。来賓には徳永晴彦校長先生、森岡清同窓会会長、須崎支部代表として本部相談役の山地健三ご夫妻、林和夫高知支部長、福井幸正関東支部長代理、濵川嗣郎京滋支部長をお迎えし、五十七名の参加者で盛大に開催されました。

同窓会支部活動は活発にやられてきたとは決していえませんが、理事会では支部活動を活性化するにはどうしたらよいかと、いつも会議にかけ苦慮いたしております。最近では個人情報保護法とやらで、連絡網が閉ざされ一層困難になっています。

そこで、本部同窓会報「にしきうら」を活用して活動予定をお知らせして会員の皆様からの情報を得たいと思います。

大阪支部活性化「友愛協調」を旨とする事業活動の一旦として、

一、機会あるごとに同窓生、同期生と連絡を密にし活性化に努める。

二、本部同窓会を活性化するため協力し、故郷の親戚や知人に須工への新入学を勧めましょう。

三、在校生が技術的、スポーツ的であれ活躍する場があれば積極的に支援できる先輩組織（同窓生意

大阪支部役員名簿（平成22年度）

役職	氏名	卒年
顧問	山田　豊	21M
〃	下村　昇	24M
相談役	松村隆司	32M
支部長	野並允温	30T
副支部長	長山良彦	34T
副支部長	増田　浩	35S
副支部長 事務局長	森本周誠	33M
会計 事務局員	浜口　博	40S
会計監査 事務局員	橋本典雄	32T
会計監査 事務局員	藤戸正万	34T
理事	谷　博之	29M
〃	竹下哲夫	29S
〃	藤本武男	30M
〃	能見教男	30T
〃	西田義照	31T
〃	正延善彦	31T
〃	山本秀夫	31T
〃	松下留吉	32M
〃	宮本光久	39M
〃	井上　博	43M
〃	広瀬直記	43C

卒業年度は昭和です。後のローマ字は　M（機械科）S（造船科）T（電気通信科）C（化学科）

識）を作りましょう。
四、平成二十四年に「大阪支部同窓懇親会」を企画いたします。多数の参加で楽しい集いを成功させましょう。
五、皆さんの中で、イベント等の考えがあれば、役員までお知らせ下さい。

年度別のイベント計画（案）

一、平成二十三年度「原子力発電所」見学と観光。
二、平成二十四年度「大阪ガス工場」見学と観光。
又は大相撲大阪場所観戦。
三、平成二十五年度「ビール工場」見学と観光、又はお花見会。
などを企画しています。参加希望の方は支部役員までご連絡下さい。ご連絡いただいた方に詳細をお知らせいたします。

高知支部だより

昭和四十一年度化学工業化卒
支部長 **林　和夫**

各地の同窓生の皆さん方、ますますご健勝で、ご活躍をされていることでしょう。
私も同窓の一人として「高校時代」を思い出しながら、母校の応援をしています。
さて、昨今の異常気象や災害は、地球規模の被害を人間社会に厳しく与えています。私たち南国土佐も「坂本龍馬」ブームに喜んでいますが、「南海地震」

高知支部役員名簿（平成22年度）

役職	氏名	卒業区分
相談役	清家　寛	18機械
〃	森下　春茂	21機械
〃	森岡　清	26機械
〃	井上　健弘	27機械
〃	秋山　正元	30電通
〃	中西　安男	32機械
支部長	林　和夫	41化学
副支部長	岡林　幸保	28造船
〃	橋本　栄彦	39化学
〃	加納　弘史	40電通
会計	石黒　明洋	40化学
会計監査	竹崎　耕作	37機械
〃	福井　正義	47電気
理事	福永　徳七郎	25造船
〃	広見　豊	28造船
〃	安並　洸吉	30造船
〃	筒井　賢明	30電通
〃	矢野　保照	30電通
〃	横畠　幸一	30電通
〃	竹村　寿夫	34造船
〃	小崎　求	36機械
〃	竹下　勝之	37機械
〃	山中　弘志	39電通
〃	正木　長生	41電気
〃	中野　純男	42造船
〃	国沢　明正	47造船
〃	門田　克彦	58造船

もいつ来るのか心配です。改めて自分たちの生活を見つめ直し、「緊急状況」に対応出来る社会を作っていきましょう。

高知支部の活動内容は、年一回の支部総会を中心とし、工夫改善を取り入れながら、なんとか頑張っている状況です。

一、総会

母校の開校記念日を総会日として長年やってきましたが、諸事情で5月の第3金曜日に開催しております。恩師や県外の同窓生も駆けつけてくれ、およそ五十～六十名の参加者で、総会議題や懇親会、記念写真等にご協力を頂いております。年配の方々が多いのですが、意気軒昂で叱咤激励を受けながら、参加者の増加と、若者への呼びかけ、そして同窓会の引き継ぎも考える必要があると思っております。

二、役員会

相談役、支部長、副支部長、会計、会計監査、理事の方々で構成しており、年間四～五回行い行事等への取り組みを中心に話し合っています。行事開催等について役員の方々はもちろん会員や他支部の方々もご意見や提言をお願いします。

三、催し物

昨年度の総会でレクリエーションとして、ゴルフコンペを開催し、総会参加者の増加を工夫してはという提案があり、今年度の総会当日に第一回須工同窓会高知支部ゴルフコンペの名称で開催しました。

県外や高知支部以外の同窓生も協力をしていただき、五十名近い参加者で大いに盛り上がり、総会懇親会の場で表彰式等を行いました。

今後は、運営方法等で皆さんが参加しやすい日程や場所を工夫していきます。県内はもちろん県外からも沢山の同窓生が協力してくれることを願っています。

四、役員名簿を掲載（情報の流失等に注意）させて頂きますので、連絡等に活用して下さい。

須崎支部だより

昭和四十七年化学工業科卒
支部長 **梅原正博**

母校周辺も朝晩めっきり涼しくなり、秋の気配を感じるこの頃ですが、同窓会員各位におかれましては、益々ご清祥の事と存じます。

須崎支部では役員も比較的若い方が多く、会の内外で楽しく懇親を深めております。中でも平成卒業の役員が三名おり、頼もしい限りですが、まだまだ若い方に役員として支部の活動に参加して頂きたいと考えております。

先日九月十一日の同窓会総会ではたくさんの方に会券を買っていただき、久しぶりにＪＡのホールもにぎやかになりました。昭和二十年代の先輩方から平成二十二年までの同窓生が一堂に会した、とても和やかな雰囲気の総会となりました。特に県外、高知支部からお越しいただいた方には須崎の魚や料理がとても好評でありましたし、平成卒業の皆さんには別途若者向けの料理を準備して喜んで頂きました。皆様にお越しいただき懐かしい話に花が咲いた事と思います。次回又お会いできます事を楽しみにしております。

須崎支部では年間二回程度の支部役員会を行っています。また、母校の地元支部でもありますので、総会の準備や、母校卒業式、職員歓送迎会への出席、体育祭や文化祭の見学、高知支部や県外支部総会への出席等を行っています。

全市を上げてのドラゴンカヌー大会や県体での母校生徒の活躍等に一喜一憂しているところです。本年も県体では相撲部・卓球部・空手部や陸上・水泳などの分野で後輩が好成績を残し、祝い金を支部より贈呈致しました。中でも相撲部については、母校の伝統競技でありますので自然と期待が大きくなりますし、野球部の皆さんも甲子園を目指して頑張っておられ、後輩の益々のご活躍をお祈り申し上げる次第です。

同窓生の皆様におかれましては、母校同窓生の先生方が減少した中で、同窓会の色々な役割を担って頂いて頑張っておられますので、機会がありましたらぜひ母校の様子なども見に来られてはいかがでしょうか。

須崎支部会員の皆様におかれましては、今まで同様ご協力をお願い申し上げまして簡単ですが支部便りと致します。

窪川支部だより

窪川支部の発足

昭和二十六年機械科卒
会長 森岡 清

かつて窪川支部は竹内長生先輩（昭和二十四年M卒）を支部長として活動を続けていましたが、その後いろいろの事情からその活動を休止していました。平成十九年度の本部理事会で、何とか復帰できないかとの意見を受けて、本部常任理事の森下春茂先輩（昭和二十一年M卒）の肝いりで、竹内支部長を中心に再起の動きを作り、平成二十年五月二十七日に窪川地区の有志数名が国元清隆氏（昭和四十年M卒）宅に集まり、本部からは森下常任理事および、森岡の二人が参加して、再起の具体案を相談しました。当日は、国元氏ご自慢の手打ちのソバをご馳走になりながら、窪川の地酒を傾けての会合で、話は順調に進み、役員の素案や約一ヶ月後には総会を開く予定でその準備など、具体的な計画を立てることが出来ました。

予定に従って平成二十年六月二十九日には、四万十町（旧窪川町）JA四万十農協会館において、約二十五名の支部会員が参集し、本部からは、井上事務局長、及び会長森岡が来賓として案内を受け参加しました。

総会では、①支部会則の承認、②会計報告、③今後の事業計画、④支部長武内長生氏他の役員選出などが協議決定され、続いて盛大な懇親会が開かれ、今後の発展を誓われました。

次に、総会で決定された役員さんの名簿および活動方針などを記載します。

支部長　竹内　長生（S二十四機械）
副支部長　岩本　巨水（S三十一機械）
〃　尾崎　宗勝（S三十一電気通信）
幹事　国元　清隆（S四十機械）東又・志和・沖津地区
〃　吉岡真佐人（S五十五機械）仁井田地区
〃　河野　英通（S三十九機械）松葉川地区
〃　竹内　淳悟（S三十四機械）窪川地区
〃　佐野　幸成（S四十六機械）窪川地区
〃　西内　一隆（S五十機械）口神ノ川・若井川・立西地区
監査　中平　利夫（S二十四造船）
〃　牧野　秀男（S四十一電気通信）
会計　戸田　優（S四十六機械）

総会後の支部では、役員相互のコミュニケーションをはかる会合などを開きながら今後の発展をはかっているが、支部長の竹内先輩の健康状態が思わしくなく、家庭で療養中の身であることから、近々役員改選も含めて役員会を開催する予定になっております。

以上窪川支部の再発足と近況をご報告します。

古希を迎えたクラス会

S三十四年造船科卒業
竹村寿夫
（高知市在住）

ようやく朝夕に少し、秋の遅い訪れを感じるようになった九月二十八日午後五時、頭髪がすっかり薄くなったり、白髪ばかりになってしまった、かっての美少年達七名と、その妻二名、それにこのクラスを指導してくださった、担任教師の合田正寛先生を加えた合計十名が高知の三翠園ホテルに集結しました。待ちに待った三年毎に開催される須工造船科昭和三十四年卒業のクラス会（通称合田ルーム）です。

この日は日中の残暑は厳しかったものの、夕刻には多少初秋の涼気を感じるなど、幸い好天に恵まれ、遠来の友を迎えるには絶好のタイミング、ホテルのロビーで久しぶりに顔をあわせるなり「おー、元気だったか。また頭が寂しくなったな」「おまえこそ、すっかりバーコードじゃないか」など、早くも握手しながらのっけから気のおけない者同士の軽いジャブの応酬、気分はもう五十数年昔の、紙町校舎時代にタイムスリップしています。早速ここからもうクラス会の幕開きです。

希望と緊張と不安の交錯した気持ちで私達が須工に入学したのは、戦後十一年目の昭和三十一年の春、校舎はまだ焼け跡の匂いが残る紙町校舎の講堂でした。

入学直後の世相は、この年の五月九日、日本登山

隊がヒマラヤのマナスルに初登頂、五月二十日、ビキニ環礁でアメリカによる初の水爆投下実験が行われ、七月二十六日、スエズ動乱の引き金になるエジプトのナセル大統領によるスエズ運河国有化宣言が行われました。(開戦は十月二十九日)。またハンガリー動乱もこの年の十月二十三日、オリンピック・メルボルン大会は十一月二十二日の開幕でした。国内的には五月一日、水俣病初の発生報告があり、五月二十四日には売春防止法が公布されました。南極観測船「宗谷」が初めて東京を出港したのもこの年の十一月八日のことです。鳩山内閣の次の、石橋湛山内閣が成立したのは年末の十二月二十三日でした。このように国内外にいろいろの重大な出来事が次々と発生し、世界が激動し震撼していたさなか、七月十七日、経済企画庁の経済白書「日本経済の成長と近代化」が発表され「もはや戦後ではない」が流行語になりました。このように、私達の将来に少しだけ明るい兆しが見え始めた年でもありました。

高度経済成長が始まるのはもう少し後、私達が社会に出てからのことです。

そうした時代、須工造船科に入学した私達のクラスは当初二十名、全員高岡郡下中学校から集まってきた者達ばかりでした。(後に広島県呉市から一名転校、卒業時は十八名)

純真な少年達が仲良くなるのにそう時間はかかりません。入学直後のその時から、間もなく肝胆相照らす仲となった私達は、それからわずか三年の間に濃密な友情を育み、それを五十有余年後の現在に至るまでまったく変わることなく親密に持続させてきたことを思うと、現代の無縁社会ではそれが誇らしくもあり、また奇跡のようにも思われてなりません。最も多感な十五歳から十八歳の思春期、本当によき友に巡り会ったものです。

残念なことに、卒業時十八名だったクラスメートも三名が他界、他の者も病気や、やむを得ない事情等で、今回は参加していただくことができませんでした。

この日の話題は当然ながら、もっぱら学生当時のことばかり。お酒やビールは回を重ねるごとに飲む量が少なくなりましたが、話題は逆に尽きることなく増え続け、全員が口角あわを飛ばして語り合い、それでも語り尽くせない分、宴会が済んだ後、全員が合田先生の部屋にビールを持ち寄って延長戦、さらにはそこを引き上げた後も、全員ごろ寝をしながら布団にもぐってまた二時間余り語り続け、ようやく最後の者の喋りが終わったのは午前二時を回った時でした。

楽しい時間はあっと言う間に過ぎ去ってしまいます。翌朝は全員が五時半に目覚め、朝食までの三時間をまたもや語り続けるという、とても古希を迎えた人間とは思えないような若々しい一夜のクラス会でした。間もなく八十二歳をお迎えになる合田先生の健在ぶりも驚異的で、全員が見習おうということになりました。

最も盛り上がった話題は、卒業式当日、須崎駅前の旅館で開いた謝恩会で、全員が初めてお酒を飲み、師弟共々べろべろに酔っ払って大騒ぎしたことでした。今ではとても考えられないことでしょう。良し悪しは別として、当時は人々も社会も寛容でした。古き良き時代の懐かしい思い出です。

その当時は須崎の街も人も元気で、活気に満ち溢れていました。先日、五十二年ぶりにかつての下宿跡や街の大通りを歩いてみましたが、ほとんど人に出会うことはなく、隔世の感がありました。あの賑わいはどこへ行ってしまったのでしょう。そのことも話題になり、全員が少ししんみりしたことでした。

ともあれ、こうして古希を迎えた私達の第四回クラス会は、感動の余韻を残して無事終了、全員次回まで元気でがんばろうと固く約束して、それぞれの日常に帰って行かれました。

以上、同窓生の皆様のご健勝をご祈念しつつ、クラス会の報告と致します。

事務局だより

平成二十二年度 総会報告

会員の皆様にはますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

前回の会報は、総会の行われた平成十九年度に発行されましたが、早いものであれから三年の年月がたち、今回は三十一号二〇一〇年版をお届けすることになりました。

はじめに、この三年間の学校での主立った出来事をご報告します。

まず、二十年春の異動で、山崎前校長先生ならびに桑名前教頭先生がそれぞれ四万十高校（旧中村高校）校長及び高知工業高校教頭に移られ、代わって徳永靖彦校長先生および、松岡博教頭先生が着任されましたが、松岡教頭先生は、二年後に高知工業高校に転出され、今年度から小松茂久教頭先生が着任されています。山崎校長・桑名教頭のお二方はお人柄も良く、いずれも持てるお力を十分に発揮され、母校の発展のためにご尽力いただきましたことは誠に有り難く心から感謝申し上げるところです。

代わってご着任の徳永校長先生も、以前に須崎高校にご勤務であった好誼から母校にはひとかたならぬ思いでお勤め下さり、心配されていた生徒数減の問題も安定的に推移するようになってきました。小松教頭先生は元々母校造船科の教員として、優れた指導力で後輩たちをご指導頂いた先生で、本校の事情には精通されているという、誠に幸いなお二人のコンビで先生方もさぞかし落ち着いたご指導が可能であろうと拝察しています。また十八年度に新設されたユニバーサルデザイン科も順調に推移し、平成二十一度三月には第一回卒業生を送り出しました。

さらに来年三月の卒業式には、母校創立以来の卒業生が遂に一万人に達するという記念の年にも当たっています。

さて本年は、同窓会総会の年でもありました。去る九月十一日（土）には、須崎市大間の「ＪＡくろしお」において、学校からは校長・教頭両先生・事務長さん、また竹村元教頭先生はじめ恩師の先生方のご臨席を頂き、会員は各支部長さんはじめ百五十六名の皆さんの参加を頂いて盛大な総会・懇親会が行われました。最後は全員で校歌を合唱し、前回同様「又三年後に（次の総会）会おうぜよ！」を合い言葉にお開きとなりました。

総会の議題は次の通りです。

一、平成十九・二十・二十一年度事業報告
二、平成十九・二十・二十一年度会計報告
三、監査報告
四、会則・規定の改定
五、役員改選・新役員挨拶
六、平成二十二年度事業計画
七、平成二十二年度予算案
八、その他

同窓会の事業としては、毎年ほぼ決まった項目で、その主なものは次の通りです。

一、年度初めの学校教職員歓送迎会への出席
二、開校記念日　生徒へのシャープペンシルの贈呈
　記念講演「先輩の話」卒業生が講師となって生徒に講演を行う。
　今年は、昭和三十七年度造船科卒業　米国船級協会（ＡＢＳ）Ｂ・Ｄの岡林謙さんから「社会に出ての人間関係の構築」と題する講演でした。
三、理事会の開催（毎年五月開催）
四、同窓会総会・会報「にしきうら」の発行（三年毎に）。
五、卒業式（会長祝辞・役員参列）・記念品の贈呈（卒業証書入れ丸筒・印鑑）。
六、今年の理事会で、同窓会会則および各種規定の全面的な見直しを行い、現状に沿った文章表現に改訂を行いましたので、総会で承認を受けました。
七、会計および、監査に関しては後の頁に記載しましたのでご覧下さい（総会で報告）。
八、以前からの課題であります事務局移転については、根本的な解決は依然として残っていますが、調整中で今期の三年間で解決を見たいと考えています。
九、今年は役員改選の年でもありますので、一部役員の異動を行いました。
　全体の役員名簿は最後のページに記載してありますのでご覧下さい。
　新しく役職に就かれた主な方々を記載しておきます（敬称略）。

会　長　森岡　清（留任）
事務局長　井上　健弘（留任）
顧　問　岡林　幸保（前副会長）

顧　問　山地　健三（前副会長）
名誉会長　徳永　靖彦（母校校長）
副会長　小松　茂久（母校教頭）
副会長　中西　安男（前高知支部長）
副会長　梅原　正博（須崎支部長）
常任理事　林　和夫（高知支部長）
坂本　定浩（前理事）
会　計　長山　孝弘（留任）
監　査　川上　清秀
山本　孝志

十、表彰　今回顧問になられた岡林・山地の両氏は、いずれも昭和四十年代の本校同窓会の再建時から現在に至るまでの長期間にわたって、その発展に寄与されたご功績を高く評価され、今回の総会で感謝状ならびに記念品を贈呈しました。
以上この三年間の概要を報告致します。

会員の皆様におかれましては、円高ほか世界的な経済不況のさなかで、日々ご苦労も多かろうと存じますが、どうか荒波に呑み込まれることなく、持ち前の須工魂で苦難を乗り越え、更なるご活躍をされますようお祈り致しております。

終身会費納入済者名

（平成19年10月11日から平成22年10月末日までに納入いただいた方々）

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

三谷　勇人
森　郁弥
森光　啓太
山下　優人
山中　一平
山中　健也
山本　浩二
横山　直之

電気情報科（25名）
池田沙央理
市川　智昭
大黒　雄平
大﨑　和樹
大西　彩加
尾﨑　遥
楠瀬　裕幸
黒石　侑希
高橋　貴幸
髙平　勇也
竹本　裕輔
立野　真紫
中内　鉄矢
西川　智也
西森　智樹
松田　直樹
松本　剛樹
矢野　智康
矢野　直人
山﨑　光
山﨑　亮
山中　大樹
山脇健太郎
横田　智也
吉本　勇樹

造船科（21名）
淺井　佳宣
井上　和仁
井上　貴文
大﨑　健北
大﨑　友輔
大坪　仁
澳本　章
楠瀬　龍二
武田　啓佑
野嶋　友樹
林　陽平
前田　紘孝
松田　正平

〈平成19年度卒〉

機械科（32名）
出間　弘樹
井上　尋太
井上　嵩之
植村　淳也
梅原　司
岡林　龍亮
堅田　智裕
加納　誠志
坂本　遼
笹岡　聖史
下元　隆司
竹内　康浩
津野　康平
中平　敦士
中平　隆太
中村　脩兵
西岡　正倫
西村　京祐
西森　翼
日浦　基紀
弘瀬　尊大
福井　匠

〈昭和39年卒〉

造船科
沖　光雄

電気通信科
野並　豊

〈昭和42年卒〉

電気通信科
浜松　孝行

〈昭和43年卒〉

化学工業科
矢野　拓雄

〈昭和63年卒〉

電気科
西森　誠

平成19年度納入者

〈昭和20年卒〉

機械１種
市川　豊八

〈昭和22年卒〉

機械２種
浜口　理
（旧姓山中）

〈昭和35年卒〉

機械科
中越佐津失

〈昭和36年卒〉

機械科
川田　敏雄

〈昭和38年卒〉

機械科
藤﨑　清文

田中　拓志
田部　尚之
中川　翔太
中平　友樹
中山　大地
福田　匡
増尾　太樹
松下　直人
山中　良太
和田　祐貴

電気情報科（28名）
池澤　聡
市川　大雅
市川　琢斗
井上　達智
岩本　匠平
海地　飛魅
大﨑　光記
尾﨑　由英
黒原　豪
笹岡　寛明
下元　一将
髙橋　永翔
田中　慧
谷脇　大樹
中山　拓紀
西村　太智
西村　優太
野中　幸司
野村　洗海
畑中　佳莱
濵田　兼信
牧野　祥太
松浦　晃享
松本　章吾
宮崎　悟
山口　将平
山﨑　成史
横田　弘樹

ユニバーサル
デザイン科（24名）
大垣　遥香
大原　優里
岡崎　真央

〈平成21年度卒〉

機械科（33名）
出間　弘人
大藤　一紀
奥田　浩貴
尾﨑　太郎
片岡　望
金田　健宏
加納　裕也
北村　知也
小田　智規
近藤　大樹
酒井　滉
佐藤　拓也
三宮　和也
高橋　利貴
田中　翔
谷岡　翔平
谷本　隆暢
寺尾　正直
寺尾　勇平
戸田　太記
中平　良
橋田　卓実
坂東　和正
久岡　平
弘田　裕平
藤澤　啓輔
宮﨑　刀太
宮脇　直也
明神　光輝
明神　達也
山﨑　大輔
横山　誓也
若瀬　奨

造船科（18名）
青木　優弥
浅利　信
川島　裕弥
川田　哲也
川渕　雄大
高橋　空翔
竹内　彰良
竹内　克磨
竹村　健太
谷脇　悠斗
近森　信介
佃　友介
津野　徹
中村　貴哉
鍋田　優也
西内　颯貞
西村　和人
野村　拓矢
野村　優輝
松下心之助
眞鍋　滉
森田　康徳
森光　雄貴
山﨑　貴宏
山﨑　大介

ユニバーサル
デザイン科（19名）
市川　実奈
黒原　千晶
坂井　美咲
髙橋満里奈
富田有希子
中野　愛佳
中山　梓
西村　千秋
西村　唯
西森　英司
二宮　優樹
沼山　依枝
濵岡　更紗
日林　由
藤田奈津季
前田　舞香
美島　唯
山中絵里奈
山脇　梓

平成21年度納入者

〈昭和32年卒〉

機　械　科
安並　進
弘田　剛士
政岡　勇貴
股川明優城
松尾　直哉
松下　翔哉
味元　倖輝
明神　勇希
吉岡　諒輔

造船科（23名）
市川　拓弥
井出　広幸
大﨑健太郎
岡林　裕士
木下　大輔
黒原　圭哉
笹岡　慎哉
澤部　拓哉
竹村　栄省
筒井　智也
長山　慎司
奈路　悠汰
西村　和哉
廣田　飛鳥
廣田　賢
廣田　節男
堀見　遼太
松岡慎之介
松本　光司
森　喜寛
森田　龍馬
森光　健司
山本　文哉

電気情報科（28名）
井上　貴史
井上　真聡
今橋　徳隆
梅原　邦泰
梅原　啓太
甲斐　亮太
川村　凌
楠瀬　朋也
國沢茂十義
嶋末　結人
竹内　滉貴
濵田　弥生
藤田　拓也
堀　裕二郎
正木　誠也
松浦　諒
森　慎太郎
山岡誠志郎
山﨑　弘法
山﨑友貴人
山本　智也

平成20年度納入者

〈昭和24年卒〉

機　械　科
竹内　長生

〈昭和30年卒〉

機　械　科
森光　貞雄

〈平成20年度卒〉

機械科（29名）
池田　一平
石川　拓也
石川　祐介
出間　浩二
岩﨑　智一
上田　蒼介
大内　俊明
岡﨑　好太
刈谷　卓央
川野　翔
川野　一樹
木村　司
楠瀬　紘平
楠瀬　章太
熊谷　孝太
田井　崇仁
田中　貴朗
野島　涼
濱　錦司
濵口　梨磨
濱﨑　渉

岡林　梓
小島　舞
門田　水希
坂本雅由佳
芝　眞愛理
島﨑　有理
鈴形はずき
竹村　政孝
西田　知加
西森明日科
野嶋　彩加
橋田　真味
濱　実菜弥
弘瀬　愛里
又川　紘嘉
松田　彩花
松田　咲
味元あゆみ
明神　薫
山﨑華菜子
横山　優衣

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第７章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を以って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実績にご理解賜き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成４年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、（会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます）同窓会活動を今後とも益々発展さすため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力お願い致します。

平成８年８月の総会にて終身会費の値上げを決定いたしました。１万５千円を納入下さい。

平成19・20・21年度決算報告（会計）

平成19年度一般会計決算報告書

単位（円）

【収　入】

項　目	金　額	備　考
前年度繰越金	271,839	
新入生入会金	244,000	2,000円×122名
定期預金利息	97,619	
普通預金利息	4,302	
雑　収　入	47,327	同窓会総会残金
特別会計補助	2,200,000	
合　計	2,865,087	

【支　出】

項　目	金　額	備　考
会　議　費	24,869	理事会他
事　業　費	28,500	開校記念品（75円×380本）
	24,675	卒業証書用丸筒
[1,160,231]	1,100,000	会報製作・封筒・送料
	7,056	会報送付用タックシール
総会補助	0	
通　信　費	10,770	
事　務　費	0	
慶　弔　費	188,600	
旅　費	191,540	
支部配分金	723,920	
雑　費	10,025	
予　備　費	0	
合　計	2,309,955	

平成20年度への繰越金額　収入2,865,087－支出2,309,955＝繰越555,132円
（内訳：高銀通帳504,838円、現金50,294円）

平成19年度特別会計決算報告書

【収 入】　　単位（円）

項　　目	金　　額	備　　考
前年度末累積積立額	29,600,000	
平成19年度納入額	1,155,000	15,000円×新卒者77名
	150,000	15,000円×旧卒者10名
貸付金返済額	600,000	野球部バス購入資金
合　　計	31,505,000	

【支 出】

項　　目	金　　額	備　　考
一般会計補助	2,200,000	
合　　計	2,200,000	

平成20年度への繰越金額　収入31,505,000 － 支出2,200,000 ＝ 繰越29,305,000円

【貸付金】（野球部生徒輸送用バス購入資金として貸付）

項　　目	金　　額	備　　考
貸付残金	2,900,000	貸付金額350万円、内返済額60万円
当年度返済額	600,000	
貸し付け残高	2,300,000	

平成19年度総会特別会計決算報告書

【収　入】　　単位（円）

項　　目	金　　額	備　　考
会費－1	625,000	須崎支部125名分
会費－1	178,000	高知支部35＋1名
お祝い金等	71,000	来賓祝い金・他支部会員会費
合　　計	874,000	

【支　出】

項　　目	金　　額	備　　考
チケット作成費	1,870	用紙・カッター
通信費	1,660	切手・ハガキ
新聞広告代	131,250	高知新聞
飲み物	6,412	お茶・(箸)
	8,280	酎ハイ
	69,000	日本酒
	80,370	ビール
料理	409,600	料理・賄い4名
バス代	50,000	賃貸料補助
写真代	15,000	記録写真
会場費	40,000	使用料・当直代
事務的経費	13,231	賞状・名札・振込手数料
合　　計	826,673	

収　支　収入874,000－支出826,673＝47,327円　平成19年度一般会計に戻入

会　計　西　山　庸　一

平成20年度一般会計決算報告書

【収　入】　　単位（円）

項　目	金　額	備　考
前年度繰越	555,132	
新入生入会金	244,000	2,000円×122名
定期預金利息	103,049	
普通預金利息	3,869	
雑収入	0	
特別会計補助	750,000	
合　計	1,656,050	

【支　出】

項　目	金　額	備　考
会議費	70,439	理事会・その他
事業費	31,500	開校記念品代（ボールペン400本）
［57,750］	26,250	卒業証書入れ丸筒代
通信費	4,830	
事務費	114	
慶弔費	158,500	インターハイ激励金など
旅費	355,580	高知・窪川・関東支部総会等
支部配分金	723,920	
雑費	5,040	
予備費	143,600	校歌ＣＤ作成援助、卒生住所調査はがき
合　計	1,519,773	

平成21年度への繰越金額　収入1,656,050－支出1,519,773＝繰越136,277円
（内訳：高銀通帳109,536円、現金26,741円）

平成20年度特別会計決算報告書

【収　入】　　単位（円）

項　目	金　額	備　考
前年度末累積積立額	29,305,000	
平成20年度納入額	1,485,000	15,000円×新卒者99名
	15,000	15,000円×旧卒者１名
貸付金返済額	700,000	野球部バス購入資金
合　計	31,505,000	

【支　出】

項　目	金　額	備　考
一般会計補助	750,000	
合　計	750,000	

平成21年度への繰越金額　収入31,505,000－支出750,000＝繰越30,755,000円

【貸付金】（野球部生徒輸送用バス購入資金として貸付）

項　目	金　額	備　考
貸付残金	2,300,000	
当年度返済額	700,000	
貸し付け残高	1,600,000	

平成21年度一般会計決算報告書

【収　入】　　単位（円）

項　目	金　額	備　考
前年度繰越	136,277	
新入生入会金	208,000	2,000円×104名
定期預金利息	97,569	
普通預金利息	1,291	
雑収入	0	
特別会計補助	1,150,000	
合　計	1,593,137	

【支　出】

項　目	金　額	備　考
会議費	25,290	理事会・その他
事業費 [116,444]	29,925	開校記念品代（ボールペン400本）
	59,482	卒業記念印鑑（ケース付）103名
	27,037	卒業証書入れ丸筒代
通信費	7,150	
事務費	142	
慶弔費	173,500	インターハイ激励金など
旅費	268,200	高知・窪川支部総会・記念講演講師等
支部配分金	761,420	
雑費	6,407	
予備費	11,500	卒生住所調査はがき
合　計	1,370,053	

平成22年度への繰越金額　収入1,593,137－支出1,370,053＝繰越223,084円
（内訳：高銀通帳215,801円、現金7283円）

平成21年度特別会計決算報告書

【収　入】　　単位（円）

項　目	金　額	備　考
前年度末累積積立額	30,755,000	
平成21年度納入額	1,545,000	15,000円×新卒者103名
	30,000	15,000円×旧卒者２名
貸付金返済額	500,000	野球部バス購入資金
高知銀行通帳より	22,362	高銀旧卒者終身会費通帳から繰入
合　計	32,852,362	

【支　出】

項　目	金　額	備　考
一般会計補助	1,150,000	
合　計	1,150,000	

平成22年度への繰越金額　収入32,852,362－支出1,150,000＝繰越31,702,362円

【貸付金】（野球部生徒輸送用バス購入資金として貸付）

項　目	金　額	備　考
貸付残金	1,600,000	
当年度返済額	500,000	
貸し付け残高	1,100,000	

監査報告

平成19年、20年、21年の会計報告については、それぞれの年度終了後に帳簿および証書類等を基に、厳正な監査を行いました結果、金額その他に相違はなく預金通帳・定期預金証書ともに確実に管理され、適正に執行されていることを確認しましたのでその旨ご報告します。

平成20年4月4日　監　査　川上　清英　西森　豊

平成21年4月8日　監　査　川上　清英

平成22年4月8日　監　査　川上　清英

平成22年度一般会計予算

【収　入】　　単位（円）

項　目	金　額	備　考
前年度繰越	223,084	
新入生入会金	218,000	2,000円×109名
定期預金利息	97,000	
普通預金利息	1,200	
雑収入	0	
特別会計補助	2,200,000	
合　計	2,739,284	

【支　出】

項　目	金　額	備　考
会議費	50,000	理事会・その他
事業費	30,900	開校記念品代（ボールペン380本）
	65,000	卒業記念印鑑（ケース付）104名
[1,233,000]	28,000	卒業証書入れ丸筒代　104名
	1,100,000	会報作成・送付代
	10,000	タックシール代
通信費	25,000	卒業生進路先住所確認用ハガキ代等
事務費	10,000	
慶弔費	200,000	インターハイ激励金など
旅費	350,000	支部総会・記念講演講師等
支部配分金	53,000	関東支部
	35,000	中京支部
	22,200	京滋支部
[761,420]	75,000	大阪支部
	185,600	高知支部
	324,320	須崎支部
	37,500	窪川支部
	28,800	幡多支部
雑費	10,000	
予備費	99,864	
合　計	2,739,284	

平成22年度特別会計予算

【収　入】　　単位（円）

項　目	金　額	備　考
前年度末累積積立額	31,702,362	
平成22年度納入額	1,185,000	15,000円×新卒者104名
貸付金返済	500,000	野球部バス購入資金
合　計	33,762,362	

【支　出】

項　目	金　額	備　考
一般会計補助	2,200,000	
合　計	2,200,000	

平成23年度への繰越金額　収入33,762,362－支出2,200,000＝繰越31,562,362円

【貸付金】（野球部生徒輸送用バス購入資金として貸付）

項　目	金　額	備　考
貸付残金	1,100,000	
当年度返済額	500,000	
貸し付け残高	600,000	

同窓会役員名簿（平成22～24年度用）

平成22年９月１日

役職	氏名	卒年・科	居住地	備考
相談役	清家　寛	S18・機械２種	高知県高知市	
顧問	岡林幸保	S28・造船	高知県高知市	
〃	山地健三	S39・化学工業	高知県土佐市	
名誉会長	徳永靖彦		高知県土佐市	母校校長
会長	森岡清	S26・機械	高知県南国市	
副会長	梅原正博	S47・化学工業	高知県須崎市	須崎支部長
〃	中西安男	S32・機械	高知県高知市	
〃	小松茂久		高知県須崎市	母校教頭
〃	井上健弘	S27・機械	高知県高知市	事務局長
常任理事	森下春茂	S21・機械１種	高知県高知市	
〃	戸梶昭雄	S45・電気	高知県高岡郡日高村	
〃	林　和夫	S41・化学工業	高知県高知市	高知支部長
〃	坂本定浩	S54・機械	高知県須崎市	
〃	滝　直道	S47・機械	高知県高岡郡佐川町	連絡理事
〃	西山庸一	S48・造船	高知県須崎市	
〃	岡田知巳	H13・機械	高知県須崎市	
理事	芝　司	S42・化学工業	高知県幡多郡黒潮町	
〃	田村武夫	S29・造船	滋賀県近江八幡市	
〃	濵川嗣郎	S31・機械	京都府宇治市	京滋支部長
〃	秋山正元	S30・電気通信	高知県高知市	
〃	野並允温	S30・電気通信	大阪府摂津市	大阪支部長
〃	竹村寿夫	S34・造船	高知県高知市	
〃	宮本博行	S43・機械	高知県四万十市	幡多支部長
〃	沖　良二	S39・機械	愛知県春日井市	中京支部長
〃	中川次男	S44・機械	高知県高岡郡中土佐町	
〃	福井幸正	S34・機械	横浜市神奈川区	関東支部長
〃	竹内長生	S24・機械	高知県高岡郡四万十町	窪川支部長
〃	坂本　操	S43・機械	高知県須崎市	
〃	伊藤久文	S52・電気	高知県高岡郡津野町	
〃	高橋誠幸	H06・造船	高知県土佐市	
監査	川上清英	H01・化学工業	高知県須崎市	
〃	山本孝志	S44・電気	高知県高岡郡中土佐町	
会計	長山孝弘	S52・機械	高知県土佐市	

同窓会に関する連絡は会長森岡清まで　〒783-0041 高知県南国市岡豊町定林寺39
TEL&FAX:088-866-5293　e-mail:sayyoumaru@nifty.com

校歌

一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝くもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団

二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穏は
波静かなる錦浦

三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

各種証明書の発行について

（母校事務室からの伝言）

証明書が必要なときは、所定の証明書交付申請書（用紙は事務室に備付）を校長宛提出しなければなりません。

申請者には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき四二〇円
成績証明書	一通につき四二〇円
単位修得証明書	一通につき四二〇円
送料	

送り先　〒七八五―八五三三
須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三
高知県立須崎工業高等学校事務室
電話（〇八八九）四二―一八六一
FAX（〇八八九）四二―一七一五

証明書の件につき不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

同窓生の皆様お変わりございませんか。

今年の夏は近年になく異常な高温が続き、全国各地でこれまでの最高気温を更新するなど、地球温暖化を否応なく認識させられたものでした。

これからの地球はいったいどうなるのでしょう。

さて、三年に一度の会報誌「にしきうら」第三十一号を遅くなりましたがお届け致します。母校の近況や各支部の動勢把握、また母校への証明書発行依頼の方法など、それぞれにご利用下さい。

聞くところによると、創立以来の同窓生数も来年度にはいよいよ一万人の大台になるそうです。大勢力を擁する同窓会になります。これも学校当局や先輩諸氏の努力のたまものでしょう。すばらしいことです。

ご寄稿頂きました役員や支部長の方々、お忙しい中、どうもありがとうございました。今後共どうかよろしくお願い申し上げます。

皆様のご活躍とご健勝を祈念しつつ。

編集子

会報「にしきうら」第三一号
平成二十二年十二月一日発行
高知県立須崎工業高等学校
発行所　同窓会事務局
編集　馬酔木舎（あせび）
高知市瀬戸東町三―二八一
☎（〇八八）八四二―六九一四
印刷所　㈲西村謄写堂
高知市上町一―六―四
☎（〇八八）八二二―〇四九二